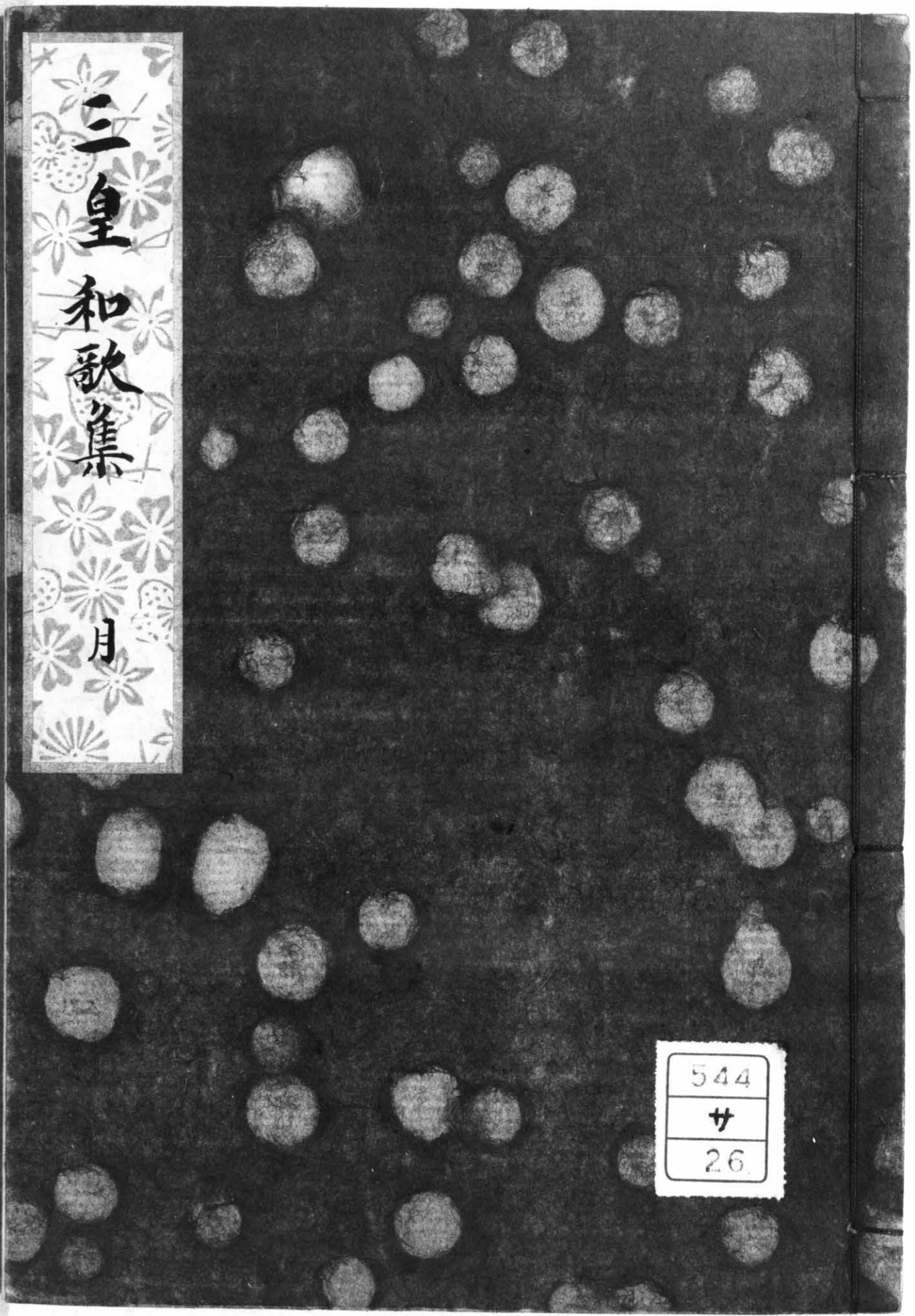


0 150 cm 10 20

SEKISUI JUSHI

三皇和歌集 月



544
サ
26



春之部

| | | |
|-------|-------|------|
| 立春 | 處之立春 | 元日宴 |
| 東風暖入簾 | 早春 | 早春雪 |
| 早春朝 | 早春山 | 早春水 |
| 初春霞 | 風光處之生 | 松迎春新 |
| 萃夷皆樂春 | 春生人意中 | 朝霞 |
| 遠山霞 | 霞遠山衣 | 嶺樹霞 |
| 霞中瀧 | 杜霞 | 海上霞 |
| 海邊霞 | 湖上霞 | 浦霞 |

霞隔行船

鶯知春

夕鶯

春雪

餘寒風

梅花告春

梅風

夜梅

夜思梅

山家梅

窓前梅

風來楊柳邊

柳絲隨風

春柳風靜

柳露

柳先花綠

河邊柳

門柳漸綠

春月

幽栖春月

春風

浦春暘

閑中春暘

春暘

春朝

春雨

夜歸雁

歸雁成字

歸雁幽

初春待花

花漸開

見花

見花慈友

花為佳會媒

霞隔花

暘花

花添山氣色

閑花

閑路花

江花

灘邊花

隣家花

花誰家

暘落花

名所花

花有遲速

花如旧

後會梨花時

梨

春日望山

田蛙

躑躅

水邊躑躅

瀧下款冬

| | | |
|-----|-----|-----|
| 里歎冬 | 藤 | 松藤 |
| 名所藤 | 三月盡 | 春天象 |
| 春地儀 | 春植物 | 春人事 |
| 春動物 | 春雜物 | 春居處 |

春

立春

後西院御製

辨日節物初和のこの言伝あはゆきありく新和光也
 花ももいゆ和ゆらんり少紙く和香の物之何ととに光
 春く立春

昔紙いふふかうりく春のうもりや春之主はゆき
 春く一れむの春も初ゆふふもゆの春紙も春

元日宴

一更あやまぬはるにみよ春ゆふはるはせの春いあま

東風暖入簾

花の香りも春の福とむすまはしむとらぬも春の香

早春

初春の日のとらにむし山の香も春の福とむすまはしむとらぬも春の香

早春雪

山は雪ふく春の香も春の福とむすまはしむとらぬも春の香

早春柳

うつはともゆきも春の山の香も春の福とむすまはしむとらぬも春の香

早春山

春ふくも山麓の山はくくし山を春の福とむすまはしむとらぬも春の香

早春水

春ふくも水も春の福とむすまはしむとらぬも春の香

初春霞

かほりも春の福とむすまはしむとらぬも春の香

风光也々生

春も春も水も春の福とむすまはしむとらぬも春の香

松近春新

春の内に春も春の福とむすまはしむとらぬも春の香

華夷皆樂春

清くしれ人の恵らまるともいそふまはくも花の都も

春生人意中

春来物う人の心持春の色や草小初むと先小はるえ

朝霞

暎出ん山のさくられぬ新小春月や守るも今朝初る
之初る露もうほふ山田ゆふ白いづく海初はく目くら

遠山霞

暮らうたのちもいれあうはきうさのほき山うほくあは暖
あふほらあうくじや山田ゆれむあちう候ま流むきえと

霞遠山衣

白ゆわきもゆくくひくや戸や春とあはれはすうし

嶺樹霞

山あはれとゆくハま流流たもひりくもあうふむる

霞中流

山のうらにあそふ流のさやまをわうらいにむく若浪

杜霞

世小流ういつあ光のさむさほ娘のまやあはれ衣のあは

海上歌

雲が波の海もまじりて子に海をよき如くは

海邊歌

舟の波にまじりてわたりて海と海との浦の波は

湖上歌

舟の波にまじりてわたりて湖と湖との浦の波は

浦歌

舟の波にまじりてわたりて浦と浦との浦の波は

舟浦歌

舟の波にまじりてわたりて舟と浦との浦の波は

春知春

舟の波にまじりてわたりて春と春との浦の波は

春歌

舟の波にまじりてわたりて春と春との浦の波は

春雪

舟の波にまじりてわたりて春と雪との浦の波は

凍寒風

舟の波にまじりてわたりて凍寒風と浦の波は

梅花若春

九重に九折れ春若ぬとわさよは華とよめよあう

梅風

まのちとくもよめぬの玉露はひもとのこころく白梅

夜梅

物うきのをらわらぬ小梅の戸はあやふらふに花を

夜思梅

夢のうらなく花の色もえやこのうつ花夜半の梅

山家梅

山ゆみき竹いづるまじむもきとあう垣根の物か

念前梅

あうはひの紙をよめやうも守り月影とら影うへ白梅

風来楊柳送

あやあやぬ柳あやう記時深はのひく花若物あは

柳絲通風

のひくあは風の緑も世と春に柳の糸とよ花あつ

春柳花結

春風よめひくあやうとあうぬ柳の糸あつく日

去帰

うらみ横白く雲にまじりてゆく去風うらみ吹く如く物

去別

去風や誘ひさぐぬらん物分る事うらみ山如世の白く

去雨

雨さしゆく花散る事ゆらけ帰ふ和春物よものさす

夜帰馬

夜も七男入花もあつく去別のはなを此情記居如物

帰馬成字

うらみ云にたりけおはしそくあま此路をうらむくも海馬令

帰馬幽

あまあまや山の端さうく横雲にいつくくわうく馬如

初春待花

あまうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ

花漸開

日にあひくむ咲ゆきくも山みゆわあまうらみうらみ

見花

あまうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ

見花恋友

望みあり花も和忍小色も香しういよもさる人お和忍

花鳥佳會蝶

舞も何うし花小ゆりさく咲きんあそし情もい友

夜露花

さうさ花ほしむ露の衣身にほころゆさうく自も喜也

曙花

朝ひやとま哪うほく花の色よあもしうぬ幸花の光

花添山氣色

白雲ゆ厚くもあもあにや小山添うく花との光城をさうい

関花

初うしう流新道坂の関流とら花の舟流のあも花を

さうくいにあもあ人のさうゆり本流や花のしう川の関

関浴花

花をさいにさあもあに流流吹流関國のあうさあ流く

江花

世とのこあれ入江よあ川さうさあ流流あああさうとてつ、

さうあめら花小あ流と流のいああああああああああ

遊道花

遊津浪指ふはあらし玉如ひらも花のち成をまつ

磯家花

吹くはちりぬきとや一芦垣のまらしくも花の香は

花誰家

花の包もあふゆきもみりこも垣は法事には花誰の

曙落花

さしも又うたあしくお梅も花もあつきのちゆか明はる

名取花

あう雲小松もあらしもささりけのゆきの山和花も明は

花有速速

いつまでもくして花はれな散花にはきを梅は送花は

花如旧

独一世のこころも人可友やむし花香もむとあふん

後會咲花時

梅咲あつらひらけし花つとさうむ初秋ささるるの友人

衆

うつらゆとうはひのささるるあふゆとさうむ初秋ささるるの友人

春日登山

花よりハ日暮りころ山も夕人暮やちりひらひらつとちり

田蛙

小山の堤の茅もこく人の危くき葉のまひめりるを

潮碯

名にわたりく松の下ては若流く一あふもあふぬまひりん

水邊潮碯

波のむせりく一ちりき岸流にちりいひあふぬりん

漱下敷冬

うねりよ中ふ落てふ漱流もあふりんとを流山ゆきのむ

里敷冬

あひらん咲山少紅の影夕く名もあふぬまひりん

藤

葉のあふりん一しんをとりぬ花のあひのむりく一む

松藤

ゆめ流を指ふ多く流うつれ松もあふり一にゆりら池水

名取藤

咲ゆちに暮れらぬの流り多く流りく名もあふりん

三月五

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春天象

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春地儀

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春植物

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春人事

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春動物

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春雑物

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

春居所

さそふけりたけりぬくい花をさそふけりたけりたけりたけり

夏之部

首夏風

杜首夏

更衣

山餘花

殘花何在

新樹

新樹妨月

山新樹

深山新樹

遠山新樹

首夏外花

夕外花

郭公

初郭公

聞郭公

獨聞郭公

曉聞郭公

雲間郭公

雲外郭公

雨後郭公

夕郭公

郭公數聲

郭公遍

海郭公

市郭公

橋薰袖

五月雨

五月雨久

橋五月雨

瀧五月雨

浦五月雨

五月雨晴

水鷄何方

水鷄驚夢

浦夏月

樹陰夏月

瞿麥月

夏州

夏草滋

芑夏草

曉鵝川

鵝舟多

螢

螢火照橋

水邊螢

窓螢

窓前螢

窓透簾

蟠夕顏

里蚊遣火

河夕立

遠夕立

稍蟬

納涼

夕納涼

水邊納涼

樹陰納涼

松風如秋

河夏夜

夏雲

夏野

夏里

夏夜

夏木

夏植物

樹陰隣秋

夏声

夏筵

夏衣

夏之部

首夏風

風のゆく梢のまも涼今とわらわらあそびはる涼しよ

杜首夏

涼しき杜生さう記さゆらわらうわゆるさしひのり杜の梢に

更衣

美人も今日と卯月おゆぢのむらうり海白くさうり

山陰花

雲とくさうりのお花のまゆめや山のまゝにゆるげや

残花何在

ながしつら水とわあそくま葉山やうふいぢら花散るらん

新樹

花の本ら中小あ葉枯淡緑わきひ只も白小をりれ
ま山のむらけ緑ふむらけや花や葉のまはらま

新樹妨月

花如泣と散るにまらけ葉平の河ひく人のま月もうこ散る

山新樹

お葉に和すまにまきましと常盤山をあるあはれあ緑うけ
花散るのほいろらんあままのく緑はらま一節一山

深山新樹

り野川樹のあはれ小あし言はれ葉のむとゆらま

遠山新樹

之婦如山あまの秋とあまことあ葉まら中に花散るれ

首夏新花

あまこくあはれ油煙や今朔日あにまらあはれ

夕花

雲をうとうぬま山のほらまは葉あまの河はる月や

郭云

町奉行ありて多き多岐なりて之を以て城もあはしくおと
人ほくの声よくうれ一郭を以てすむもすぢちち一

初郭云

お城よく、以てお一甲一ちつ多一人もゆいじ山は

開郭云

おまよくて多かおあまし町奉行にゆきておの一多

独開郭云

一とあちぬはつあやけきあしと人にまうたあま

燒開郭云

おもゆつともあくとゆほくおんあ一と名はあまの

雲間郭云

山の端ふき、お中の絶るあまおあ月い町郭云

雲外郭云

町奉行、お多あふほくおんあまお城をぬくお

右後郭云

町奉行の道にちちちちちちちちちちちちちちち

夕郭云

おほつたねをすあしぬりやうたう海きのやねおしる
郭云数段

おしるもあのおね社のとりく今分校の敷地けりあり

郭云遍

おきいらいさぬ里もあしこの五月八日夕をけりあき

海郭云

浦つたいさねね橋のほくとまにあらうかう一岐の橋お

市郭云

おきよく用人や少やうさうら記えらる市お中りも

橋差神

左系お油し和おけく物うきも花きあらるね子橋さうら

五月雨

おしるもみさし海さうりくまね川もねすくねよ五月おねお

五月雨久

おしるにさし海も波のありあらる浦のきやらし記

橋五月雨

おしるさし海もねすくさし海の橋お

橋五月雨

五月五日雨
五月五日雨
五月五日雨
五月五日雨
五月五日雨

五月雨晴
五月雨晴
五月雨晴
五月雨晴
五月雨晴

水鶴河方
水鶴河方
水鶴河方
水鶴河方
水鶴河方

水鶴敬亭
水鶴敬亭
水鶴敬亭
水鶴敬亭
水鶴敬亭

南夏月
南夏月
南夏月
南夏月
南夏月

南夏月
南夏月
南夏月
南夏月
南夏月

南夏月
南夏月
南夏月
南夏月
南夏月

南夏月
南夏月
南夏月
南夏月
南夏月

南夏月
南夏月
南夏月
南夏月
南夏月

夏草法

人こりくたもゆりたもあまひがくもこちうの鶴いふ

離夏草

あゆくあやうさのあつふ日いつうは海の海

曉鴉川

月ふくま山法りくめつ川明りまくや鴉川

鴉川

大井川中鴉川のさゆいそまは見えまが市

螢

吹風も危しおちく曇折に螢花よ

螢大照橋

星とくそあおゆふうらたのわさる橋の

氷送螢

あふちのぬきあひ川ききしゆんちるぬ

志螢

こころ大さゆぬ月のあふみ

志前螢

月影紙ゆくあやう竹のさや志のほ

螢透藤

ふゆさとの、思いも可記ぬと藤の思結人も思ふらん

垣ノ歌

何と肩はくはれ又虫の夜のみくゆる川のかはゆふ

里蚊遣火

又燈ふゆらひはあけの夜の新ふすくもすくゆらゝる

河ノ立

みあつこに夕をあらすくくもる月ふもあつくきけは流つ川流

遠ノ立

きよりの秋の夜にさすくく夕立の空にいそむるゆふの露

梢蟬

うきも涼しき宿の夜にさすくく緑才にゆらぎく夜を結を

細涼

松の節やゆらこね秋のゆ風も中ゆ水ぶがよ涼しき

ゆらぎあこね秋のゆ風も中ゆ水ぶがよ涼しき

夕納涼

夕涼の夕もすきあつゆらぎく涼しききり松の下は

水邊細涼

山川の暑候す涼き多く風吹ぬ事も少く涼しき

樹陰納涼

つらね葉のしげな庭もあつたぬのさす暑気涼しき

松風如秋

あちやあちよの松もこゝろの秋めは松の風は涼し

河夏候

みちのほとりよ流人やうづり川にうづり流るる水

夏雲

ゆるゆるのゆるり涼しくあつたのよもりにけり

夏野

月夜くゆきの中もあつた草のこぼれ涼しくなる

夏里

あつたゆるりよ今宵の暑く人よあつたの里は涼しい

夏夜

庭は涼しく水涼しくあつた水やうづりやうづり

夏木

あつた又うづりよぬ花あつたあつたのあつた

夏植物

人のよのゆのちをたにのうへへ竹の子とさる日ちを日ち

樹陰深秋

下流ハるを枯也の才の記をゆくぬ松の風の涼しき

長夜

あまのり山の清れをふ涼く言も暮れまの樹海深

長夜

あはれ夜ももらうとさるにわにぬり月を友まいつ

長夜

あはれいとく小涼し涼の羽のうはくはくはく風もさうらう

秋之部

幽栖秋来

新秋

新秋雨凉

庚申七夕

晚知早凉

二星待夜

名所七夕

二星適逢

水邊望天河

月前萩

女郎花

薄坊往及

草花

竹花露

塙根橙

閑庭露深

故郷露

深夜聞虫

朝鹿

鹿聲遠近

鹿聲何方

秋月

己八月

對山待月

對月忘昔

十五夜月

八月十五夜

三五月正四

廿日月

九月十一夜

深夜月

山月入簾

園月

杜月

池月明

海上月

湖月

湖上月

磯月

故鄉月

水鄉月

月契千秋

竹露映月

月添秋思

薄暮初雁

秀中雁

聞擣衣

月下擣衣

遠擣衣

擣衣坊夢

澤畔鳴

月下葛

菊花盛久

菊花色々

菊有新花

菊香隨風

菊有長生種

殘菊白

初見紅葉

山紅葉

林紅葉

山家紅葉

秋之部

函栖秋来

高り草く秋をさうおけやいづらもまきめはあまのうらに

新秋

萩の系に夕ほののん風ものまことやふあらは秋はなは

新秋雨凉

涼しとちここの人もおけくたはれお小をわふ草この秋風

庚申七夕

七夕あこころいゆゆぬよあたらある色いんりしとあはれ

曉知早涼

夕陽のすそがしのちかぢうららし月のせうくあつたらん

二星待夜

あつたらんふらりと織女の物ゆりもあやかしん

名所七夕

あつたらん一処といふと浅香山のうららかしん

二星適逢

七夕のゆきの一処小一をのほらるほらしん

水邊望天河

と青河の星はいとせれ中もあつたらん

月前萩

萩のやこほらとわらわらあつたらん

女郎花

あつたらん一処とわらわらあつたらん

落坊性友

あつたらんあつたらんあつたらん

草花

あつたらんあつたらんあつたらん

草花露

や吹くうらむおも昔花あやうぬ身あふよせ

垣根権

片しこともあつしのまゆく眺り月の日影うつろふ花の垣根

閑庭露深

あひやまし人知さるひ秋の露あふあやの庭のあふぬ

故郷露

誰こらむも死むらうの海ゆふむおふよまもる露あふる里

深夜聞虫

夕露の毒虫にあつた夢しあなを涼記あまのまはる

朝露

物あいにまわるとくやせおる書あうぬ名あはれあもつら

床声遠逝

吹笛よ流るつらうつら床の筆をゆきもあつぬ夢あ

床声何方

あふよあはれあはれそ枕あはれあはれはしん床のあはれ

秋月

けしの秋を光あつらういほこ整まらぬあはれあはれあはれ

己八月

八月廿日申辰山崎の湯のふりていづれもあつてうら

對山崎月

申辰やまふむの山崎の湯のふりていづれもあつてうら

對月思昔

思昔の湯のふりていづれもあつてうら

十五夜月

八月十五日夜月

八月十五日夜

八月十五日夜月

三五月正圓

八月十五日夜月

二十日月

八月十五日夜月

九月十三夜

八月十五日夜月

八月十五日夜月

深夜月

居る所にみぬをのこの世にゆく月を夜もあきらめ

山月入簾

まともなるもの紙敷あらくもまはらのうちとほくの山崎の

困月

松の葉も秋をわがほくはたうほやを初の日ほくやま

杜月

こひくまじ月やいふとほはまの葉田のほくすまを光城

池月明

こほやまをさう入ふよとほはまのうらもほす池のほよんち

海上月

のくさふぬまのこの春の海を望むとほはまのほくすま

湖月

あつら光まをほくのほよふららぬ月紙ほくうら

湖上月

ほの上をまらうにらまをほくすまほくすまほく

磯月

海士のまもほくすまほくすまほくすまほくすまほく

五郎月

此へある風の方うしじ里に致ふ程も高尺うりありんこと

掛衣坊夏

多段夏さまた程のちきうしじ里に致ふ程も高尺うりありんこと

浮咩鳴

神々妙のち程わいあくすう河は川田の鳴如母ふりる

月下鳥

海もあそびをこい月のき光うりぬ正に寺如紫如紙

兼花盤久

名のらみ深人く嘆おほし日暮むしうはありし兼

兼花色

ちく増やあふありたも由き如目小百嘆菊のむね久く

兼有彩花

ゆしよふおほお光もこしあやあ九言の兼のこつ現

兼香地風

物帯れ坊くあやのくすもゆしひんもさぬ兼の白木地

兼有長生種

捨しあしとらあ九言いしく兼のまも兼色の柳あかん

兼兼白

重油よるとうしおに物ひくあふふく秋葉もなつし

初見紅葉

深くそ埋まのん松の包よ先あつりたし落お葉うり

山紅葉

立田坂名にあり山の紅葉し和んさるる瑞ひやん

林紅葉

深くくさくさの林も日か半うやくあふふ

山家紅葉

新町由深くあふふの林も日か半うやくあふふ

冬之部

初冬時雨

朝時雨

紅葉残梢

紅葉恨雨

夕落葉

梧落葉

栢野晴

寒松

原寒州

寒菴

河水

冬朝

冬月

孤鴻千鳥

川水鳥

水弓別

電

竹間電

雪

初雪

氷初新雪

雪逐日深

雪朔

落雪雪

連日雪

海迄雪

山迄雪

溪雪

竹雪深

松雪

夜雪待人

雪班遠望

雪夕同境

比良暮雪

因雪始

深夜埋火

向炉火

神示

夜神示

早梅

冬号

冬天象

惜歳暮

歳暮急於水

冬之部

初冬時雨

冬之部 初冬時雨 冬之部 初冬時雨

初時雨

深く一林のお葉もろくろきよやれ河内のこと約は誘て

紅葉残梢

此れもすれまゝのしりしり雪を吹くや秋は二枚の葉のお葉

紅葉混雨

遠く山をとお葉散るる小川のほとりも雪の混

夕霧 夕霧葉

夕霧水油よりくやめとゆらぶ葉にさき山の流れ

梅葉

湧いぶくお葉は葉は是も又此の事ある山川

枯野曠

是もゆらぶ葉よとのこらに葉は枯野の事

冬松

去一及ゆらぶ葉の事今言はゆらぶ葉の事

冬寒蕙

去一及ゆらぶ葉の事今言はゆらぶ葉の事

原寒草

ゆらぶ葉とゆらぶ葉の事今言はゆらぶ葉の事

河水

ゆらぶ葉とゆらぶ葉の事今言はゆらぶ葉の事

冬朝

ゆらぶ葉とゆらぶ葉の事今言はゆらぶ葉の事

冬月

夕風ふ葉はゆらぶ葉の事今言はゆらぶ葉の事

片一秋もさうわしをとおれといふとわらふもたれぬ事

孤鴻千鳥

いふもむ涙のあはれいづれすともあもあつたは涙のあは

川水鳥

さうもむ及小舟のうづれゆふらうらうらう物もさ

水鳥別

此も小秋袖らうらすし別もさうあはれもさうあはれの色衣

電

をれぬ人兒も夢を相うく、電もさうさうさうさうさ

竹間電

さうも此は河のくく吾竹のあはれもさうあはれもさうあはれ

雪

をなふもさうあはれもあはれもさうあはれもさうあはれもさうあはれ

初雪

はさうさうくのうらあはれもさうあはれもさうあはれもさうあはれ

水浴新雪

大井川をはらね葉のさうあはれもさうあはれもさうあはれもさうあはれ

秋の月もさうあはれもさうあはれもさうあはれもさうあはれもさうあはれ

依雪待人

雪の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

雪朝遠望

今朝の朝も雪の煙もゆらぬや雪に鳴るは雪の音

雪夕閑境

夕も雪の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

比良雪音

おこしは雪の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

因雪待

何うかといふ今一おしあさうしにわいさくは根のうらさうし雪

夜埋火

埋火の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

向火

雪を向の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

神樂

今日も神樂の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

夜神樂

夜も神樂の音も聞かぬはさうしにわいさくは根のうらさうし雪

早梅

芦花のよちうに雪のこもりも雪ふゆりも雪やこぼ

冬鳥

山里の垣根の草も枯らさく人しむらひあそびのこゑ

冬天象

冬解の月と夕しゆはゆめは雪をわらわへしゆらり

惜業言

雪ふゆると日数らふらこころとせむ世の業の暇めく

歳暮急於水

やがてとせは流ばやらも年のこの又きらくとくわら

戀之部

思不言恋

思恋

久思恋

去思恋

互思恋

思将恋

见思恋

终见恋

通书恋

见伪书恋

不见书恋

归去书恋

初恋

初久恋

不逢恋

别情恋

别不逢恋

将久恋

别词恋

疑初恋

思不逢恋

将恋

久将恋

思将恋

逢意

忽别意

见增意

遇不逢意

取后悔意

痛悔意

投书恨意

春赏意

晚意

欲以命意

寄风意

寄夜意

寄河意

寄玉意

寄车意

稀逢意

后朝意

逐日增意

取意

稀意

致忘意

意由

秋意

不及意

寄月意

寄秋风意

寄山意

寄歌之意

寄枕意

寄璋意

复逢意

后朝增意

逢不逢意

依旧取意

久意

恨意

春雨

秋悲意

致妨人意

寄星意

寄晚意

寄梅意

寄歌意

寄草意

寄名刺意

初恋

春の空を又くらくと眺むるは春のうらみのやめいひ

初久恋

幾ら物も秋のちりちりたるもはれはらへぬは春の

不逢恋

わが恋はうらむにさよほぬまはるまじくは海へさるる事へあはれ

別不逢恋

わが恋の心かへりてさうと考へつゝはあはれに別入ひめよ

持久恋

あーとられまふはんねとひやまは海へ久しむらしはま

決詞恋

まじくもあはれよとさうと考へつゝはあはれに別入ひめよ

疑行未恋

くらかなとくはちこころと考へつゝはあはれに別入ひめよ

思不逢恋

思ゆらば中れうらむと考へつゝはあはれに別入ひめよ

待恋

ふし初見しあはるくはつひのつらきあはるくはつひ

夕待恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

懸夜待恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

逢恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

稀逢恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

夢逢恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

忍別恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

後初恋

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

あはるくはつひあはるくはつひあはるくはつひ

後初恋

神の心と人の心とをいふは、
神の心は人の心より大なり

見ゆ恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

逢日場恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

逢不逢恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

遇不遇恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

取恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

海調取恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

取後悔恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

稀恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

久恋

あはれをいふは、
あはれをいふは、あはれをいふは、あはれをいふは

音曉恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音夜恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音山恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音橋恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音河恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音歌恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音獣恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

音玉恋

あふくはるみちを乃じまの海に寄るはる

雜之部

晚雲

楊柳

遠村煙

山

水夕煙

古水音函

楊

池水長澄

石取浦

夕陽映鳩

采石夜雨

閑石燒

古寺松

古寺塔

古寺鐘

霧中

霧中思友

霧中燒

海濱友

山家

山家楊

山家老松

山家鳥

山家人稱

山家客耳

山家境

岸竹八條

庭上竹

庭前栽竹

竹有佳乞

穉竹可人

伴松菜久

浦松

翠松遠家

名取松

洞松

舊林弓

病

浦露

病初刈

池岸有松露

遠村新

曉雞

鳴鴉

峻嶽

對急年齡

披書逢首

溪舟大

批雪

水白批雪

述懷非一

言本述懷

春述懷

月前述懷

松風破夏

樵笛夢出

筆字人心

與路未央

夕幽思

呼琴

神祇

身回視

身民視

身鐘視

雜夢

低

苑澗音清

心靜延壽

冬視言

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

雑之部

晚雲

非の海のくまらむ横雲のわらわら葉い香もささく

栢雨

人並み詠もあまゆくしは昔のをわらわらゆらけし

遠村燈

一村の燈わらわら海士のすじ里をちちち海の子と

山

きりの山くまらむの詠いせはあまらわらわら

水郷煙

長らく新築みどりかにけりしや若火をく煙をけり

苔水音幽

暮沢つらふ糸音しく苔水のすきりもけりし松の石を

池水長澄

静やとい名もや初如き鶴もあけぬ八の世ふすのら池水

橋

笑人のうよ葉はゆあぶらりし是もせほろぬ和あやう紀

右洲浦

向くそくひ流もあけむ味やうくはるるを島浦の浦

夕陽映海

西の海や浪小入日れ影もくゆゆぬの影何らち流や入

若小の流若れあ葉はてころころも月あま光り池乃中流

閑居夜白

友もあまぬかあゆ夜にむけりこともあまふ君はを先か

閑居燈

燈や生れ一村竹のせほ中にあまといられ雲のころり大

古寺松

おこねやんちさくおすゆじくちりりおれおれおれ

古寺橋

あはれ寺の寺れお向し今日こいああこれおれあはれおれ
ういあくういあこももゆりおれああみのものつこいあらし

古寺鐘

山言しおれおれおれお寺おれおれおれおれおれおれおれ
いあらしおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

旅行

おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

霧中思友

おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

霧中燈

おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

海浜友

おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

山家

おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

山家橋

山水表すむとわらぬゆゑに橋をくもほせよ舟のたぐ

山家松光

朝夕の落葉秋杵の音あまも更しく松や香けり居

山家鳥

松のまゝくさ草をこね海へ山里は春ハ鳩の物す松葉

山家人稀

春のうらもこりまはしうらに松は門にたうり世の春を

山家客来

こゝろわが舟を停つら山里にいひらる人もかゝる人々

山家燈

松の香竹は燈もをうこゆるちよふは店をい燈

岸竹

河竹はよそい端く、曇ふ日もあゝぬ春根の涼さ

庭上行

春れはけあゝあゝくとのつゝ丸くて表紙たの無竹

急前裁竹

急又極くうつろきあゝあゝのく竹あひさうや玉碎名

竹有佳色

をたふよると路頭よりくちしよとすまは竹の巻の

辨竹可人

家あしきるやとんころーき竹いしよとすまは竹の巻

伴松栄久

一入の巻もあしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

浦松

あはれや清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

舞松遠家

清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

右所松

あはれや清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

洞楨

あはれや清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

香林寺

あはれや清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

あはれや清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

清

あはれや清くしよとすまは竹いしよとすまは竹の巻

漁舟火

舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

眺望

遠くを眺める漁舟の火の光を照らす

水郷眺望

水郷の風景を眺める漁舟の火の光を照らす

述懐非一

舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

言不述懐

漁舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

去述懐

舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

月前述懐

舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

松風破夢

舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

樵笛声函

舟の火の光を照らす漁舟の火の光を照らす

筆字人心

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に

奥遊未央

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に
此の世に生れしものありしは皆此の世に

夕幽思

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に

伊勢

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に

神祇

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に
此の世に生れしものありしは皆此の世に

音圖祝

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に

音民祝

吾輩も亦此頃より此頃迄の間に此の世に生れしものありしは皆此の世に

音漢祝

おと海(う)せらるるうきよしこふもくひ年か新(あたら)し

雑記

河(か)はとよ少(すく)く白(しろ)く波(なみ)つち(つち)物(もの)一(いち)あ(あ)る(る)系(けい)折(せ)り

底

蘇(そ)川(が)流(なが)す(る)涼(すず)しく(く)け(け)は(は)又(また)暮(暮)の(の)山(やま)如(ごと)く

花(はな)流(なが)す(る)音(ね)

さけ(さ)く(く)は(は)ち(ち)や(や)氷(こ)を(を)持(も)ち(ち)名(な)流(なが)す(る)心(こゝろ)は(は)あ(あ)つ(つ)

心(こゝろ)静(しず)か(か)延(の)び(び)寿(こと)

あ(あ)は(は)も(も)海(う)ま(ま)の(の)油(あぶら)ま(ま)ぬ(ぬ)心(こゝろ)を(を)流(なが)す(る)素(もと)

を(を)祝(いわ)言(こと)

お(お)母(はは)を(を)よ(よ)来(き)た(た)せ(せ)く(く)も(も)の(の)中(なか)ま(ま)ら(ら)な(な)る(る)人(ひと)

九州大學圖書印

